

金曜コラム - スポーツ ミートゥーが野火のごとく起きるように。

【 2019. 1. 10 記者会見文 】

趙ジェボム性暴力事件に対する徹底した調査と処罰、及び再発防止を促す！

現在、大韓民国は趙ジェボムコーチ（訳注：チョ・ジェボム、ショートトラック元国家代表コーチ）がシム・ソクヒ選手に行なった性暴行事件で大きな衝撃に陥っている。常習傷害容疑などで起訴され、9月には懲役10ヶ月を宣告された趙ジェボム前国家代表コーチは現在、性的暴行の疑いを追加で受けた。シム・ソクヒ選手が直接裁判に出て厳罰を訴えた12月17日、京畿南部地方警察庁に強姦傷害などの疑いで趙元コーチを追加公訴した事実が一步遅れて知られたものである。シム選手は当時高校生だった2014年からオリンピック直前まで4年間の継続的な性的暴行があったと陳述した。振り返ってみると、2014年ソチ冬季五輪を控えてもショートトラック代表チームのコーチの女子の弟子セクハラ事件が起き、まさにその空いた席に趙ジェボムコーチが装備担当コーチに選ばれた。私たちはセクハラ事件で生じた空席に選任された彼が同じ犯罪を繰り返したという事実に注目しなければならない。これはスポーツ界の性暴力が趙ジェボムという個人の逸脱ではなく、これまで繰り返し長い時間学習された、いわゆる沈黙のカルテルに根本的な問題があるという反証だからだ。

16歳で国際大会で初めて1位になり、2014ソチオリンピックで金メダルを獲得した後、各種国際大会で21個の金メダルを首にかけて世界最高技量の選手が小学校の時から今まで「こんなに打たれて死ぬかも知れない」という極限の恐怖に苦しめられるほどひどい暴行を受けても「暴行の事実を知らせると選手生活が終わる」という脅迫に代表選手としての生活に不利益が生じると恐れて、誰にも助けを請えず、誰もシム・ソクヒ選手を助けてあげないところがまさに大韓民国スポーツ界だ。

昨年、社会の全領域でミートゥーの風が吹き荒れたとき、唯一スポーツ分野は静かだった。選手の現在と未来について絶対的な権力を行使するコーチと監督、外部の視線から遮断された閉鎖的な合宿所と訓練場は事故が起きたとき黙認やほう助、甚だしくは同調する沈黙のカルテルまで。このような事件が起こるのに最適化されたスポーツ界の慣行と性文化がむしろ今回の事件の本質である。今までスポーツ界のミートゥーは無数のミー（Me）のみが存在し、連帯して支持するトゥー（too）がなかったのである。

困難を乗り越えて勇気を出したシム・ソクヒ選手の告発がスポーツ界ミートゥーで野火のように広がり、スポーツ界で今後このような性暴力が発生しないように今回こそ根絶しなければならない。徹底した真相究明と断固とした罰則は構造的な問題を解決するための対策作りを促す。

ひとつ 趙ジェボム性暴力事件に対する徹底した真相究明と処罰、再発防止対策を用意しろ！

ひとつ 独立／外部機関が主導して民間専門家が参加するスポーツ界性暴力問題の全数調査を実施せよ！

ひとつ スケート連盟、大韓体育会などスポーツ界の慢性的な性暴行問題を傍観、幫助してきた機関の責任者は辞退せよ！

ひとつ 実効性のない監査と調査、届出システムを改革せよ！ 「スポーツビジョン 2030」で明らかにし

た首相傘下の<体育団体公正委員会>設立、「文化ビジョン 2030」で明らかにした<スポーツ倫理センター>設立などを適切に推進せよ！

私たち体育、文化市民運動、女性、労働、法律団体はシム・ソクヒ選手の勇気ある告発がスポーツ界の代表的な積弊であり弊害である性暴力の問題を根絶する、遅くはあるが大切な出発点になるようにあらゆる努力を尽くす。

2019年1月10日。

シム・ソクヒ選手の勇気に再び感謝と連帯の意を伝えて。

民主社会のための弁護士会、全国民主労働組合総連盟、韓国労働組合総連盟。

文化連帯、性暴力反対演劇人の行動、スポーツ文化研究所、女性文化芸術連合（WACA）、若いスケート人連帯、体育市民連帯、体操協会役員キム〇〇性暴行事件共同対策委員会、(社)100人の女性体育人、#ミートゥー運動と共にする市民行動、韓国女性団体連合、韓国女性の電話（Korea Women's Hot Line）、韓国女性民友会、売春問題解決のための全国連帯、韓国性暴力相談所、韓国女性労働者の会、民主社会のための弁護士会、全国民主労働組合総連盟、韓国労働組合総連盟

*今回の金曜コラムは2019年1月10日プレスセンターで開かれた記者会見<スポーツミートゥーが野火のように起きるように。趙ジェボム性暴力事件に対する徹底した調査と処罰、そして再発防止を促す！>の記者会見文で置き換えます。

<訳注：記者会見の様子は下記、写真も下記より転載>

出典：<http://women21.or.kr/statement/12801>

■日時：2019年1月10日（木）午前10時30分

■場所：プレスセンター19階の記者会見場



前列右から4人目が体育市民連帯のホ・ヒョンミ共同代表（敬仁女子大教授）

01 ハンギョレ 2019.01.09

【単独インタビュー シム・ソクヒ弁護人「選手村で被害…国の責任も」】

「申告センターがなくてこうなった。教育強化し永久除名してどうするんですか。事後ではすでに遅い。（国が）基本的に自己の責任だと切実に感じなければなりません。（今まで）トカゲの尻尾切りのように無責任に逃げて、当事者個人の不正だと取り残してここまで来たのです。」

9日、ソウル中区法務法人世宗のオフィスで会ったイム・サンヒョク（50）弁護士は、ショートトラック代表シム・ソクヒ（22）選手が高校2年生の時から趙ジェボムコーチに性的暴行をされたという事実について「国家の不在」と言いました。イム弁護士は「法律的に管理監督の問題があります。国家代表選手は国の代表であり、国が必要なので国際大会に出す。良い成績を要求し統制されたシステムに選手を入れおいては、その中で繰り返される犯罪に自分は知らないと逃げる。これは個人の問題ではない。国家から自らの問題であると認識しないと根絶することができない」と強調しました。

イム弁護士はシム・ソクヒ選手の弁護人を昨年夏に初めて務めました。2018平昌冬季五輪を控え、忠清北

道鎮川選手村で行われた趙ジェボムコーチのシム・ソクヒ選手暴行事件が法廷で争いに入り、シム・ソクヒ選手の方でも助力が必要だったからです。1審は昨年9月に常習傷害などの容疑で趙ジェボムコーチに懲役10ヶ月を宣告して法廷拘束しました。

初・中等学校に通う二人の息子の父親でもあるイム弁護士は「シム・ソクヒ選手の暴行内容を知っている子を持つ親の立場から他人事ではなかった。親はシム・ソクヒやキム・ヨナを見ながら選手の夢も育て、指導者に任せられる。ところが性暴行まで受けたという事実を聞きながら、これは本当なのかと疑いました。シム・ソクヒ選手の言葉を信じられないのではなく、果たして2019年大韓民国でありえる事なのかとショックを受けた」と言いました。

シム・ソクヒ選手は一生の痛い傷の性的暴行の被害について言わなかった。趙ジェボム元コーチと法廷攻防をしながらも、しっかりと口を閉じていました。しかし拘束された趙元コーチが自分の誤りを認めず免れようとする勇気を出しました。イム弁護士は「2審の過程で趙コーチが合意書を提出するなど、ややもすると暴力の問題が執行猶予で終わる可能性がある」と判断しました。私たちの方でも得られることを得ながら合意する模索もしました。その時シム選手が父親に性的暴行の事実を打ち明けた」と言いました。

いつも娘の世話をしてきた父のショックも大変なものでした。イム弁護士は「長い間、娘をサポートしてきた父も、このような事実を知った後とても衝撃を受けて怒りました。現在、ストレスのせいで薬を服用しながら耐えている」と伝えました。イム弁護士はすぐにシム選手の性的暴行被害告白後に女性弁護士を配置してシム選手と一対一で聞き取り調査を進めており、週末まで徹夜作業をしながら12月に性暴力事件の追加告訴をすることができました。

イム弁護士は、この部分でシム・ソクヒ選手の勇気を賞賛しました。彼は「暴行事件だけで裁判が行われたとき、ともすれば些細な事件で終わっていたかもしれない。シム選手も被害者の立場から「どうしようか」「競技力向上のためのムチと考える人もいるだろう」「私が敏感に反応することはない」などと考えた場合、埋もれてしまったでしょう。しかし、シム選手は踏ん切りました。本当にすごい決意であり、大きな勇気」と言いました。

これまで指導者の暴力や性的暴行の問題が起これば、最終的に被害を受ける側は選手が多かったです。2015年の国家代表ルーージュのクォン某選手は常習暴行をしてきたコーチの損害賠償訴訟をして勝訴しました。しかし1年単位で選ぶ国家代表選抜に備えることができず、結局夢に描いた代表チームに入ることができません。イム弁護士は「告訴をし、訴訟まで行っても判決文は意味がありません。選手はたてついても損だという認識が広がっています。その時も連盟では選手を全く保護しませんでした。大韓体育会も傍観したのは同じです。構造の問題というよりも個人的な問題で片付けている」と批判しました。

ショートトラックをはじめとしたスケート種目は通常、個人コーチが選手を指導します。選手と指導者の関係は理解が相反しなければ一生続きます。シム・ソクヒ選手は小学校1年生の時から趙ジェボムコーチの指導を受け、中学時代から全国を席卷しました。しかし、勝利の喜びではなく記憶したくもない悪夢のような記憶がより重く積りました。

イム弁護士はこの日、文化体育観光部の緊急記者会見で蘆テガン次官が性的暴行の加害者永久除名など新しいことのない対策を打ち出したことについても「中身が一つもない。無責任だ。問題が発生する前に防がず、事故が起きた後では何の意味もない」と強く批判しました。続いて「被害場所として国が直接管理監督する選手村の女性ロッカールーム、学校ロッカールームで発生した。もし本当に自らの責任だと思うなら火が消えた部屋を訪ねて見る注意が必要だった。やはりそれは他人事なのでは。今回のことをきっかけに管理監督

の責任がどこまであるのか、上級の位置にいる人たちがどこまで責任を負うのかを調べなければならない」と主張しました。また、「事件が浮上すれば、これが早く消えてほしいと願う人がいる。責任から逃れるためだ。そのような人が全ていなくなってこそ、このような問題が解決される」と付け加えました。

シム・ソクヒ選手は現在、2月ワールドカップと代表選抜戦を準備しながら、泰陵選手村で訓練しています。大韓スケート競技連盟の関係者は、「シム・ソクヒの表情が以前よりもはるかに明るくなった。訓練も熱心に行っている」と伝えました。イム弁護士は「女性として耐えなければならない追加の被害と加害者の報復、家族を考えて、この事実を一人で耐えてきました。その物理的、精神的被害はあまりにも大きい。しかし今、多くの人々の激励と応援が力になっている」と明らかにしました。

シム・ソクヒ選手の健康な復活は大きな意味があります。選手生活ももっとしなければなりません。イム弁護士は「シム選手がより良い競技力を発揮するためには国民の役割が必要です。シム選手を支持して声援し、能力のある選手が自分の能力を発揮できるように引き立てなければならない」と言いました。

02 京郷新聞 2019. 1. 10

【 '趙ジェボム性暴行波紋' 拡散…

“スポーツ界の「沈黙のカルテル」を壊せ”スポーツ界のミートゥー拡散】

“趙ジェボム暴行・性暴行波紋”が広がっています。シム・ソクヒ選手以外の選手たちの性的暴行の被害も確認されました。先にミートゥー運動を行なった文化芸術団体は被害者との連携に乗り出しました。性暴力告発はスポーツ界の閉鎖的システムと垂直的権力構造を壊そうという声につながっています。

文化連帯・若いスケート人連帯・スポーツ文化研究所・体育市民連帯・性暴力反対演劇人の行動などの団体は10日、「選手の現在と未来について絶対的な権力を行使するコーチと監督、外部の視線から遮断された閉鎖的な合宿所と訓練場、事故が起きたとき黙認・幫助・共助する「沈黙のカルテル」が今回の事件の原因だ」としました。彼らはこの日、ソウルの韓国プレスセンターで開催した「趙ジェボム性暴行事件の真相究明と再発防止対策を促す」記者会見の中で、スポーツ界の性暴力全数調査、責任者辞退を要求し、このように述べました。

ヨ・ジュンヒョン若いスケート人連帯代表は「2ヶ月前からスケート界の性的暴行疑惑を受けて、事実関係を把握した結果、現在5?6件程度の疑いがあり、このうち2件は被害者を介して直接セクハラ疑惑を確認した。未成年者の時から被害を受けた選手もいる」としました。ヨ代表は「被害者や保護者は暴露しても、自分だけ被害を受けて、変わることがないと考えている。ただ我慢して過ぎる場合が多い」としました。若いスケート人連帯は他の性暴力の被害者を集めて記者会見を行う予定です。

ホ・ヒョンミ体育市民連帯共同代表は「スポーツ界の性暴力は選手や指導者と呼ばれる典型的な権力構造で発生する」とし「今日も選手や指導者として複数の女性体育人が一緒にしようとしたが、不利益と2次加害への懸念のために出なかった」と言いました。

先月18日、大統領府の国民請願に出された「趙ジェボムコーチを強力処罰してください」の賛同者は20万人を超えました。大韓スケート競技連盟は14日、管理委員会を開き再発防止対策と趙元コーチについて追加懲戒を議論します。

*出典：[http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?art_id =](http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?art_id=)

201901102152005

03 韓国日報 2019. 1. 10

【 与野党 “性暴力犯した体育指導者の資格永久剥奪” 】

政界はショートトラック代表シム・ソクヒ選手の性的暴行被害暴露を支持し、再発防止対策の準備を約束しました。制度改善努力の一環として与野党は10日、暴力や性暴力を犯した体育指導者の資格を永久剥奪する法案を超党派的に発議しました。

共に民主党所属のアン・ミンソク国会文化体育観光委員長と文体委の委員であるヨム・ドンヨル自由韓国党、金スミン正しい未来党、チェ・ギョンファン民主平和党議員は国会で記者会見を開き、国民体育振興法改正案発議の趣旨を説明しました。そして「シム選手の痛ましい涙と勇気ある告白に接し、加害者を厳重処罰することはもちろん、スポーツ界の性的暴行、暴行犯罪を確実に根絶するよう国民は要求している」とし「これ以上この問題を放置してはならない」と強調しました。

今回の改正案の骨子は運動選手に身体的暴行や傷害の被害を与えた体育指導者を「ワンストライクアウト」にすることです。具体的には△一回でも選手対象暴行や性的暴行の疑いで刑を受けた指導者の資格を永久剥奪し、△刑確定以前でもプレーヤーの保護のために指導者資格を無期限停止し、△スポーツ指導者になるには国が定めた暴行と暴行予防教育を義務的に履修することする内容などが盛り込まれています。

法案発議に参加した議員らは、このような内容の「運動選手保護法」を2月の臨時国会内に処理すると約束しました。「一回限りの断片的な措置ではなく、常任委員会のレベルで体育先進化のための立法措置を主な課題として選定し、継続的に努力する」とし「運動選手保護法は、その最初の努力」と明らかにしました。特にアン委員長は「2月の臨時国会が開かれれば、まず最初に今回の事件の懸案報告を受け、国会レベルの真相調査をしなければならない」とし「与野党議員らと積極的に議論する」と付け加えました。

与野党は李ギフン体育会長の辞任をはじめとするスポーツ界の自省と変化を促しました。アン委員長は「大韓体育会役員の総辞職まで要求することができる初の事件」とし「選手を殴ってメダルを得るのではなく、新しいスポーツの場をつくる先進国に向けたターニングポイントになることを望む」と述べました。金スミン議員は「今回の事件報道の数時間後に政府は免責性拙速対策を発表し、この事件で最も大きな責任がある体育会長の姿が見えない」とし「真正性のある謝罪と責任ある辞退を促す」としました。

*出典：<http://www.hankookilbo.com/News/Read/201901101643338725?NClass=SP01>

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com